

国際共同研究事業 令和 5(2023)年度実施報告書

令和 6 年 4 月 30 日

独立行政法人日本学術振興会理事長 殿

[日本側代表者所属機関・部局]

立命館大学・文学部 日本文学研究学域

[職・氏名]

教授・赤間 亮

[課題番号]

JPJSJRP 20211708

1. プログラム名 プログラム名を選択してください。

2. 研究課題名

(和文) 上方文化サロン: 人的ネットワークから解き明かす文化創造空間 1780-1880

(英文) Creative Collaborations: Salons and Networks in Kyoto and Osaka 1780-1880

3. 共同研究実施期間

令和 3 年 12 月 1 日 ~ 令和 6 年 11 月 30 日 (3 年 0 ヶ月)

4. 相手国側代表者(所属機関名・職名・氏名【全て英文】)

British Museum・Curator・Akiko Yano

5. 当該年度実施状況

- ・当該年度実施計画書の「当該年度実施計画の概要」の内容と対応させつつ、当該年度の実施状況を簡潔に記載してください。再委託又は共同実施を行った場合は、それぞれの実施状況がわかるように記載してください。
- ・当該年度又は前年度(複数年契約を締結し繰越を行った場合)の各費目における増減が研究経費総額の 50% (この額が 300 万円を超えない場合は 300 万円)に相当する額を超えた場合は、その理由と費目の内訳を変更しても計画の遂行に支障がないと考えた理由を記載してください。

2023 年度(2023 年 4 月～2024 年 3 月):

本年度は、本研究における最大の目標成果物となる大英博物館展覧会の開催に向け、展覧会の内容充実、情報量強化のための、日本側は資料のデジタル収集、データ蓄積を集中的に行なった。

人名録等からの人物情報データを抽出する作業支援システムが効率的に稼働し、2023年度、大量の情報を蓄積することができた。継続的に蓄積を行っているが、冊子資料では不可能であった大規模な人物情報検索システムを、2024年度前半期にスタートできる。

その蓄積された情報を研究活動に有機的に活用するためのオンライン型システム「上方文化人総合データベース」の運用が開始しており、英国側参加者は、主にこのデータベースシステムを活用して、研究活動を深化させることができています。一方で、研究活動をオンライン上で行うため、このデータベースそのものに編集を加え、研究活動の深化とともに、データがさらに充実していくという、エコサイクル型研究へと展開できる基盤システムとして稼働し始めたと言ってよい。

在英国の関連資料のデジタル化については、オンラインによる講習により、協力研究機関である SISJAC (セインズベリー日本芸術研究所) への技術移転が済み、イーストアングリア大学やケンブリッジ大学の院生のインターンシップ型活動の中で、追加デジタル化が実施された。

一方、日本側での資料については、江戸・明治の画家・文化人にかかわる個人コレクション(コレクション記号:iws 1枚物 60 点、冊子 18 点)のデータベース搭載と公開を進め、オンライン上での翻刻・テキスト化を進めることができた。また、大阪と京都をつなぐ交通の要衝であった吉志部(岸辺・吹田市)の旧中西家住宅に所蔵される絵画作品のデジタル化(95 点)、江戸時代中期には郡上市の豪農であった河合家が所蔵する明治前期までの絵画・文献資料のデジタル化(絵画 59 点、冊子 3 点)を実施できた。江戸後期上方関連資料は、いまだ個人所蔵品が多く、これらを所蔵する個人の発掘を継続したい。

以下、英国側参加者との協働を含めた具体的な実施内容を記す。

1, 2023 年度までにデジタル化を実施した資料の各コレクションにつき、新規登録分デジタル化とデータベース登載、既存データのデータ修正(赤間、東野)

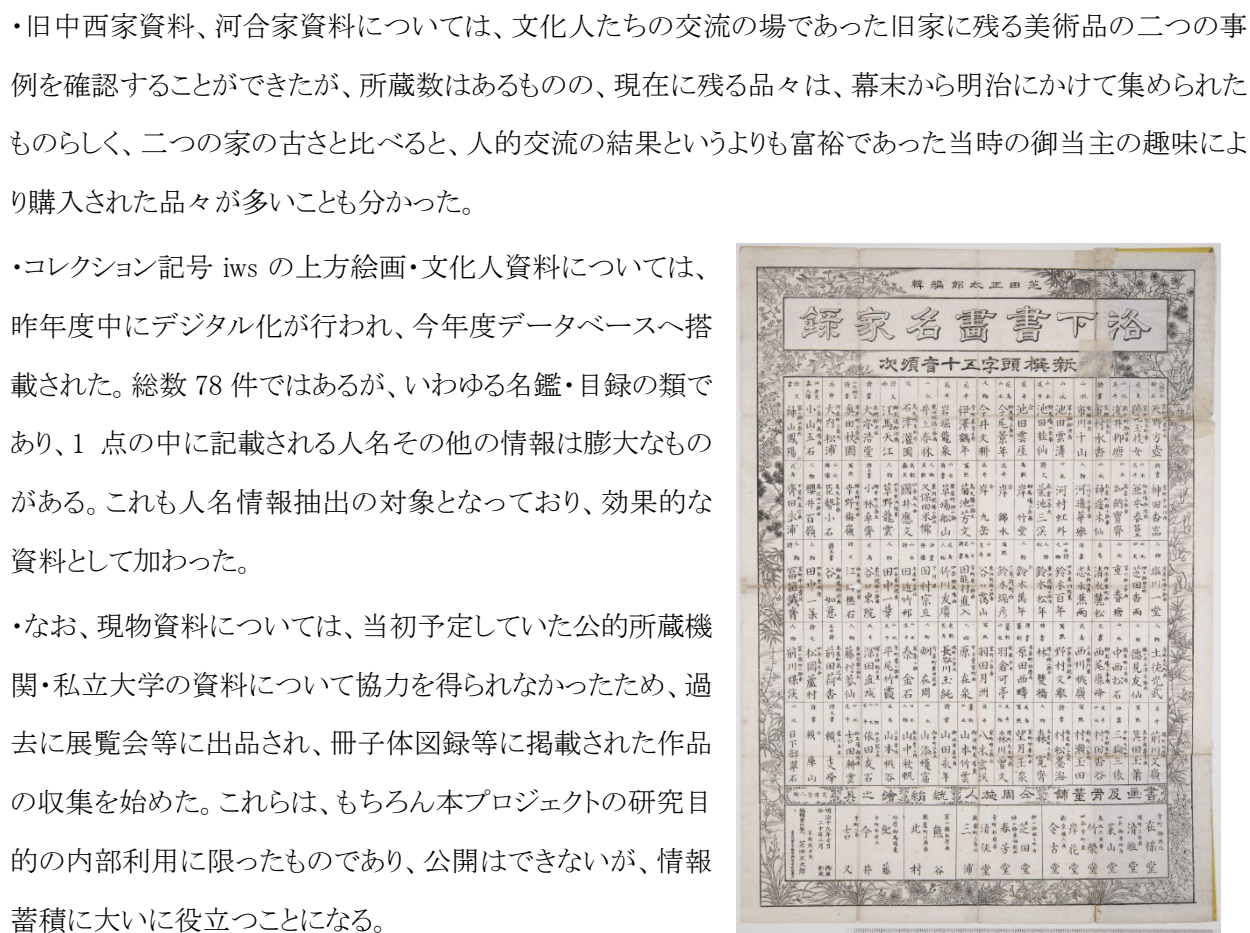
・ポール・ベリーコレクションについては、デジタル化後、本人との連絡が途絶えがちになっており、一般公開の契約を急いでいるところである。

・上方摺物コレクションについては、メタデータの入力を日本側・英国側から実施している。とくに、翻刻能力のあるアルバイトによる、摺物内の俳諧・狂歌を中心とするテキストの翻刻を急ピッチで進めており、句と同

[illegible]

図1 翻刻テキストから画中の文字を検索して作品を表示

時に詠者の俳号・狂歌名が瞬時に検索できる資料データベースとして成長している。



以上の新規デジタル化資料は、一般公開、研究利用の厳密な区分けの上、すべて画像閲覧できる絵画データベースに搭載しており、Salon 研究の基盤的情報となっている。

2, 「文化人・芸能人出現典拠データベース」の情報蓄積継続(統括: 赤間、東野)

・名鑑等の人物関連資料からのデータを取得しデータベース化するデジタルツールについては、2023 年度フル稼働しており、遅れを取り戻すことができた。これを日本側メンバーと英国 PD がマネージメントを行い、専門性の高いパートタイム人材と RA や院生等により集中的にデータ取得を実施した。現在、月単位で、これをデータ処理し、文化人出現典拠データベースに登載している。(日本 RA、院生、英国 PD)

・2022 年度に協力を得てデジタル化した iws コレクションについては、従来の資料の不足を補う有力な資料群であり、情報抽出システムからのデータ取得を優先して実施できる。(日本 RA、院生、日本側協力者)・大英博物館所蔵摺物については、上述のように高速に翻刻作業を進めており、この翻刻がそのまま大規模なテキストデータベースとして稼働し、「文化人・芸能人出現典拠データベース」と同等の文化人の活動実態を探る情報源に成長した。

3, 研究活動に直接活用するシステムとしての「上方文化人総合データベース」と活用(赤間、平井、中谷)

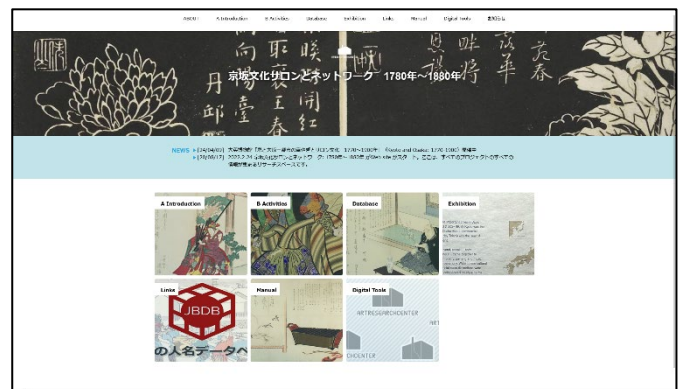
総合データベースは、ポータルを親として、複数の子データベースにより構成される。

ポータルは、

<http://www.arc.ritsumei.ac.jp/lib/vm/salon/>

に公開されている。

このうち、「Database」というカテゴリ内にデータベース群が配置されている。現在は、本プロジェクトメンバーが活用するデータベースとして、パスワードが設定されている。



1) 上方文化サロン「芸能人・文化人関連年表」の構築(統括: 赤間、東野、矢野)

https://www.dh-jac.net/db/chronology/search_Salon.php

・年表情報は、文化人個々の年譜データと日記等の記録データから構成させる。今年度は、代表的な上方文化人について、展覧会図録に掲載される年譜情報を参考に人物年譜情報を蓄積した。日記データについては、記事が長い場合の処理の基準を設け、後期に集中して情報蓄積を実施し、日記に現れる人物情

報の整理を行なった上で、データを登録したが、日記については、解読の問題もあって、専門家の協力が必要であり想定通りの進捗にはならなかった。(英国 PD、日本 RA、院生、日本側協力者)

2) 上方サロン「文化人・芸能人出現典拠データベース」(前項参照)

https://www.dh-jac.net/db/usermemo/search_Salon.php

(2024 年度末に、独立した Salon 文化人出現データベースを構築予定)

・名鑑・目録類から文化人・芸術家の情報を大量に抽出した。たとえば、展覧目録からは、現在、8023 件の人名が抽出されている。

3) 「芸能人・文化人 人物名データベース」の高度化(統括: 赤間・東野、矢野)

<https://www.dh-jac.net/db/shumei/search.php>

・芸能人、文化人が持つ複数の名称を整理した「人物名」による人物情報データベースであり、総合データベースのインデックス(エントランス)にあたるデータベースである。従来の人名辞典等からの情報を集約し、それを1)2)を活用して随時更新して最新情報蓄積と運用を行なった。(英国 PD、日本 RA、院生、日本側協力者)

この 3 タイプのデータベースは、相互にリンクしており、インターフェイス上は総合データベースとして稼働しているように見えるという仕組みである。

この研究環境を使い、従来よりも大きくバージョンアップした人物情報空間の中で、研究者が考察を深められるようにするのが、日本側の目標である。しかし、現状で、大規模な情報収集ができたが、オンライン上の情報や美術事典等を組み合わせた、いわゆるアナログ型調査によって得られる情報量に達していない。そのため、便利なデータベースであるが、本研究に参加するメンバー・研究者にとっては、アナログ型調査・確認も、いまだ必須となってしまう。そのため、いわゆる情報の「臨界点」(アナログ資料の情報量・質を超える地点)に達するまで、情報蓄積と修正を続ける必要がある。この「臨界点」を 2024 年度中に達成するようにしたい。

なお、総合データベースとして成立したうえでも、研究者ユーザビリティについては、継続的な検証が必要であり、メンバー・協力者の活用とフィードバックを、プロジェクト終了後も続けていきたい。(平井、中谷、英国全員)

4, 文化人交流ネットワークマップ、活動地域マップの構築(統括:赤間、東野)

この総合データベースに追加されるツールとして、人物交流ネットワークマップと活動地域マップの作製について、手法の開発を進めた。オンライン上にこのシステムを設置することは、可能だが多様な機能を加えるには膨大な作業と費用が必要となる。このプロジェクトでは、ネットワークグラフ作成アプリを利用してネットワークグラフを柔軟に可視化するため、むしろデータ書き出し機能を充実させた。すなわち、上記のすべてのデータベースに CSV 書き出し機能を追加し、エクセル等のスプレッドシートやデータベースを経由することで柔軟にデータを調整しながらネットワークグラフを生成できるようにした。

1) 文化人交流ネットワークマップは、年表データベースから取得される人物間の接触回数、ならびに人物名データベースに記述される親子、師弟関係の数値化により表現されるネットワーク図である。時間軸により、整理され、時期により人物関係が変異していく様子が表現されるようになった。

2) 活動地域マップ、出現典拠データベースに、地理情報を付与している。これを経度緯度へと変換し、個別人物の活動地域を GIS に登載し、人物間の地理的な関係を視覚化するものであるが、今年度は、この機能について開発を進めることができなかった。(日本 RA、院生、日本側協力者)

な

5, 上方サロン関連資料のデジタルアーカイブ継続(赤間・東野)

・大英博物館資料のデジタル化については、大英博物館の学芸員による資料持出・売却事件以来、外部者の収蔵庫等への出入りが厳格化され、デジタル化についても外部者は不可能となった。そのため、2023 年度に技術移転できたこのプロジェクトは上述の通り粛々と進める。また、日本国内の資料については、予定していた所蔵機関の許可が得られず、個人コレクションの発掘を継続的に進める。

6, オンラインワークショップの開催

1回目:2023 年 10 月 13 日

主に、運用が本格化する「上方文化人総合データベース」の活用実践についての報告、ならびに利用方法のインストラクションを中心とし、展覧会に向けた進捗情報を報告した。

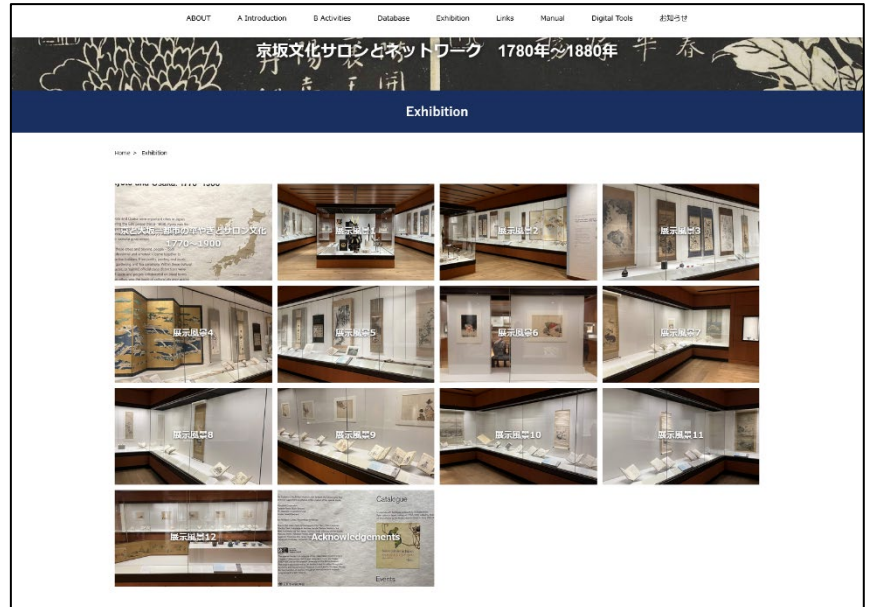
2回目:2024 年 3 月 26 日

協力者も含めた、研究発表会を実施した。発表者は、スコット・ジョンソン氏「A Typical Amateur Haijin, and a Uniquely Important Amateur Haijin」、横谷賢一郎氏「義仲寺と俳諧摺物 円山四条派進出の一例」である。とくに横谷氏は、大津の俳諧サロンによる高級俳諧摺物の制作にかかわる実態、円山派絵師中島来章の活動について触れた新知見を共有することができた。

7, 大英博物館カタログ原稿完成 (2024 年 2 月)

展覧会開催に合わせて出版される展覧会カタログの編集を行い、メンバー、協力者から原稿を収集編集した。

本報告の対象期間外となるが、本カタログ「Salon culture in Japan: making art, 1750-1900」については、2024 年 4 月に刊行された。また、4 月 1 日から、大英博物館日本展示室において、前期の展覧会がオープンしている。



7. 研究発表(当該年度において本共同研究の一環として本事業による支援を受けたことを明示して発表したものについて記載してください)

[雑誌論文] 計(0)件 うち査読付論文 計(0)件

通番	共著の有無 ^{*1}	著者名、論文標題等 ^{*2}
1		
2		

[学会発表] 計(0)件 うち招待講演 計(0)件

通番	共著の有無 ^{*1}	発表者名、発表標題等 ^{*2}
1		
2		

[図 書] 計(0)件

通番	共著の有無 ^{*1}	著者名、著書名等 ^{*2}
1		

*1 相手国側参加者との共著(共同発表)がある場合は○と記入。

*2 当該発表等を同定するに十分な情報を記載すること。例えば学術論文の場合は、著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年(西暦)、最初と最後の頁、掲載論文の DOI、学会発表の場合は発表者名、発表標題、学会等名、発表年(西暦)、発表地(国名、国外開催の場合のみ)、図書の場合は著者名、著書名、出版社名、発行年(西暦)、総ページ数、ISBN、など(順番は入れ替わってもよい)。相手国側参加者との共著となる場合は、著者名が複数であっても省略せず、その氏名を記入し下線を付すこと。

*3 足りない場合は適宜行を追加すること。

8. 本事業による産業財産権の出願・取得状況(当該年度に出願又は取得したもの)

[出 願] 計(0)件

通番	産業財産権の名称、発明者、権利者、産業財産権の種類、番号、出願年、国内・外国の別
1	

[取 得] 計(0)件

通番	産業財産権の名称、発明者、権利者、産業財産権の種類、番号、取得年、国内・外国の別
2	

* 必要に応じて、欄を追加してください。